

企業のチャレンジを応援する  
ビジネス創造誌

# NiCpress

公益財団法人にいがた産業創造機構 vol.138

2016

10



特集

暮らしの中で愛され、売れ続ける商品開発

# ロ ラング デザイン ザイン

## 専門家INTERVIEW

公益財団法人日本デザイン振興会 常務理事

青木 史郎

## 事例企業

- (公財) 燕三条地場産業振興センター 燕三条ブランド推進室
- 株式会社兼古製作所
- 株式会社コロナ
- 安達紙器工業株式会社

## 連載

GO! GO! チャレンジ企業

シゲル工業株式会社

注目企業におじゃまします

株式会社アイビーシステム

## BUSINESS TOPICS

新潟モノ&ワザ図鑑

ニットーポー新潟株式会社  
よしだや



2010年 グッドデザイン・  
ロングライフデザイン賞受賞  
株式会社坂源(三条市)  
ミニクリエーションF  
[ガーデニングハサミ]



## デザインの目的は 社会や生活を 豊かにすること

グッドデザイン賞は、私たちの暮らしや社会のためになるデザインを「よいデザイン」として、応募者と共に「発見」し、それを広く「共有」し、新たな「創造」への気付きに繋げる循環によって、社会発展の架け橋を未来へ渡していくことを目指した、総合的なデザインの推奨制度です。

そして、ロングライフデザイン賞は1980年に、グッドデザイン賞の受賞後10年経っても変わらず支持されているものを表彰しよう、という形で設立されました。背景には、見栄えが良い、喉越しが良いだけのモノづくりは一過性であり、本当のデザインとは「生活を豊かにすることが目的である」ということを伝えようとした狙いがありました。

その後、ロングライフデザイン賞は2008年にリニューアルをしました。グッドデザイン賞は作り手から発信しているものですが、一方でデザインの最大の評価者はユーザーであることは明らかなので、使い手から「この商品はいいよ」「いいデザインだよ」と推薦してもらう仕組みを加えよう、と考えたのです。

## LONG LIFE DESIGN

暮らしに寄り添うスタンダードへ

# 生活者視点から 選ばれる ロングライフデザイン

モノづくり企業にとって、長年に渡って愛され続ける商品を生み出すことは大きな目標であり、喜びであるはずだ。今号では、そうした息の長い商品を開発し、育てていくデザインのポイントを探りたい。グッドデザイン賞の日本デザイン振興会では、10年以上支持されている商品を対象とした「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」を設けている。そこで、同振興会の青木史郎常務理事に、その賞の目的や狙い、デザインのあり方について話を伺った。

2012年 グッドデザイン・  
ロングライフデザイン賞受賞  
株式会社マルト長谷川工作所(三条市)  
ハイグレード・ザ・ペンチ



公益財団法人  
日本デザイン振興会  
常務理事

青木 史郎氏

### PROFILE

1972年東京藝術大学美術学部芸術学科卒業後、同年財団法人日本産業デザイン振興会(現:公益財団法人日本デザイン振興会)に入社。中小企業へのデザイン導入などデザイン振興政策の企画と実施を継続的に担当。1998年にはグッドデザイン賞の民営化に伴い制度をリニューアル。日本デザイン学会会員、芸術工学会理事、首都大学東京・産業技術大学院大学客員教授、東京大学工学部・東京藝術大学非常勤講師。



## ロングライフデザイン商品開発のポイント

スタイリングだけでなく「ユーザーがどれだけ豊かな暮らしを送れるか」という、使う人を中心とした“デザイン思考”による発想

- 生活を豊かにするものであること
- 将来に渡って、暮らしに寄り添うものを意識する
- 力のあるデザイナーと仕事をする
- 経営者がデザイナーの能力を引き出す



## 良いデザインによって 誕生する 暮らしに寄り添うプロダクト

あくまでもデザインを崇めるのではなく、これからも身近にずっと有り続けてほしいものを皆で選び、社会に「これは宝だよ」ということを問いかける回路として賞があります。

ロングライフの製品たちは、結果として残ったのではなく、良いデザインをしたことによって暮らしに上手く寄り添ったもの、ということになると思います。例えば、オムロンの電子体温計は、日常で使いやすく、数字も分かりやすく、見た目にも温かい気持ちになるような製品で、デザインは何をすべきかが明確に意識されている。定番を作るという、ロングライフ的なスピリットが現れています。

2015年に一般からの推薦で受賞したのがコクヨの測量野帳。測量時に、立って書くことを想定し、表紙が固い台紙になっている手帳で、まさに発見でした。生活者発信という仕組みは、残念ながらまだ定着していませんが、プロモーションを進めて、このような発見がもっと出てくるといいなと期待しています。

## 優れたデザイナーを使う 経営者の熱意、力量が重要

スコッティ ティッシュや、カロリーメイトなどは、横綱クラスのデザインですね。グラフィックデザイナーとして非常に有名な方たちのデザインは、さすがに上手い。例えばスコッティは主張しすぎたはいけない日用品を、うまく家庭の中に置いてもらうにはどうするか、そして売り場

では存在感も必要だ、という兼ね合いを計算しつつデザインされています。しっかり目立ち、品を無くさず造り込めるのはデザイナーの凄さです。

重要なポイントは、こうしたデザインができるデザイナーを選び、そのデザインを認めた会社の手腕だと思います。カロリーメイトのデザインは誕生から30年以上全く変わらないし、海外でも認知されている。それを作らせた企業の力量を感じます。

デザイナーはただ任せ切りにすると、自分の都合のいいようにやりがちです。そこで手綱を締めて、的確な仕事してもらおうのは一種の技術で、経営者の熱意だったり、手腕だったりします。開発の目的を経営者自身がしっかり把握し、デザイナーと向き合うことが重要なのです。

ロングライフのなかには、細かく進化させていくものもあります。1975年発売のプラスのフラットファイルは、とじ具のエコ素材への変更や取り付け部分の細かな改良など、小さな仕様変更を経ているものの、基本的な使用方法は変わっていません。典型的なのは家庭用テレビゲーム機のコントローラー。登場した時点で決定打でしたが、新機能が出るなか、進化させないと減びてしまうので、柔軟に対応し向上させ続ける。それが日本企業の良さだと思います。

## 投資回収の論理が 変化した今、 重要なのはロングライフ

経営においては、現在、短期回収を目指したときの弊害を皆さんが経験してきて、投資回収の論理がずいぶん変わっています。投資を少なくして、それをゆっくり回収する方法はどうしたらいいか、ということをお考えになりますが、そうした時にはやはりロングライフの商品を生み出すしかない。そうした視点はいわゆる経営論の中には出てこないのかもしれませんが、重要なことだと思います。

商品開発で大切なのは、技術やノウハウなど自社の財産をしっかりとつかみ、商品が未来に向けて作る価値をとらえた上で、きちんとしたデザイナーを使うことだと思います。本当に鍛えられたデザイナーは、明日を見通しながら、自分がどういう立ち位置で、企業は何をしてほしくて、それをどういう形にすれば、みんなの側に置いてもらえるかということ「言える、まとめる、出来る」という能力を持っています。それを上手く引き出して使うマネジメント力を経営側が持つこと。経営者の課題として、その部分を磨くことが大切だと思います。

### CHECK! /

● **[G展]** 今秋発表の最新グッドデザイン賞受賞作品を紹介するイベントが開催されます。

#### GOOD DESIGN EXHIBITION 2016

期 10/28(金)～11/3(木・祝)  
所 東京ミッドタウン(六本木)、渋谷ヒカリエ(渋谷)

#### みんなで選ぶグッドデザイン大賞展

期 9/29(木)～10/23(日)  
所 GOOD DESIGN Marunouchi(丸の内)

#### 私の選んだ一品2016展

～2016年度グッドデザイン賞審査委員セレクション  
期 9/29(木)～10/23(日)  
所 東京ミッドタウン・デザインハブ(六本木)

#### LONG LIFE DESIGN EXHIBITION 2016

期 10/28(金)～11/20(日)  
所 GOOD DESIGN Marunouchi(丸の内)



ユーザーが  
最大の  
評価者！

## 長く愛される商品開発の ヒントを探る

生活に根付いたロングライフなプロダクトを数多く生み出している燕三条地域から長く支持され続ける商品開発のヒントを、そして、長岡のメーカーからは、デザインの視点を加えたオリジナル商品の開発について伺う。

### デザイナー経験を持つ 専門職員が企業をサポート

燕三条の地域産業の発展のために、さまざまな角度からの支援を行っている燕三条地場産業振興センター。その中にある燕三条ブランド推進室では、デザイナー経験がある酒井次長と中山課長補佐が、商品開発・デザインに関する相談への対応にあたり、希望に合わせてデザイナーとのマッチングも行っている。

燕三条のプロダクトの多くが機能的に成熟しているので、ロングライフな商品も多いと語る酒井次長。一方で、「10年以上、市場で受け入れられ続けるには、狭義でも広義でもデザインが良く、品質や使い勝手も良くなければなりません」と語る。

### グッドデザイン賞を通して 商品の在り方を学ぶ

企業のデザインに対する意識を高める仕掛けとして、同推進室ではグッドデザイン賞への挑戦をサポートしており、主催者を招いて応募説明会を行ったり、プレゼンテーションのノウハウなどをアドバイスしている。さらに審査後は、受賞企業を紹介するイベントや展示会を開催。「知っている企業が受賞しているのを見て、自分たちもエントリーしてみようという会社が増えることを期待して取り組んできました」と中山課長補佐は話す。

企業にとっても、グッドデザイン賞への挑戦は宣伝効果のほか、模倣抑制や開発スタッフのモチベーションアップにつながる。また審査書類の作成を通して、製品づくりの目的や社会貢献などが明瞭になるなど、作り手側の学びも多く、商品開発力の向上につながる。

### 品質とデザインに 一目置かれる燕三条メイドへ

これまで、新潟県内のグッドデザイン賞の受賞数は750点弱で、そのうち約660点が燕三条のもの。ロングライフデザイン賞の受賞数も多い。「燕三条はものづくりのまちであり、デザインのまちでもあると思う」と話す酒井次長。作り手の魂がこもった完成度の高いデザインが生み出され、また中小企業ならではのフットワークの軽さで細かいモデルチェンジに取り組むなど、各社が誠実な仕事を継続することによって商品のクオリティを高めてきたと語る。「ユーザーから“燕三条のものなら、品質もデザインもいいよね”といわれるようになってほしいですし、既に、そうなり始めていると思っています」。

## 地域産業のデザイン力向上へ 支援機関の立場からバックアップ

### (公財)燕三条地場産業振興センター 燕三条ブランド推進室

次長 酒井 利昭 氏 / 課長補佐 中山 一成 氏

〒955-0092 三条市須頃1-17 TEL.0256-36-4123 FAX.0256-32-5701  
E-mail brand@tsjiba.or.jp URL http://www.tsjiba.or.jp



「作り手の魂がこもっている商品は完成度の高さを感じます。そして絶え間ない改良を続けている。そうしたものは長く愛されていると感じます。私たちも地域産業のブランド力アップに向け、支援機関として出来る限りのサポートを行ってまいります」と語る燕三条ブランド推進室の酒井次長(写真左)と中山課長補佐(写真右)。



2010年にグッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞したアネックスドライバーNo.6000、No.6300シリーズ。



新製品のデザインを最終決定するのは兼古社長の仕事。そのとき、大切にしているのは「見て一目でANEXらしいと感じられること」。

## 味気なかったハンドツールにデザインの力を注入

「ANEX」のブランドで、各種ドライバーや電動工具用ビット、ハンマーなどの作業工具を開発・製造している兼古製作所。2代目である兼古社長が昭和52年にUターンして以来、特徴ある独自機能、カラフルな色づかい、斬新なデザインを取り入れた商品開発に取り組むようになった。グッドデザイン賞は昭和59年の初受賞以来、連続受賞を続けているほか、アネックスドライバーNo.6000シリーズなどがロングライフデザイン賞を受けている。

兼古社長は「作業工具の一番のユーザーは職人の皆さんで、製品にとって最も大切なことは彼らにとって使い勝手がいいこと、飽きがこないことです。だからこそ、デザインが大事で、その点はグッドデザイン賞が目指すものと重なっていると思います」と話す。

## デザイナーへの依頼は内容を絞り込むことが大切

ドライバーという成熟した商品に、持ち手の形や素材に注目して進化をもたらした兼古社長。自身が大学で美術を学んでいたこと、そしてドイツの国際見本市で、欧州のメーカーの個性あふれる機能的な作業工具を見た経験が、その後の方向性に影響を与えた。「当時、色がない自社商品を変えようと思っていたけれど、欧州のメーカーはとっくに取り組んでいた。世界的な視点から見ると自分たちの立ち位置が分かるので、そういう場所へ足を運ぶことは、とても重要だと思います」。

商品開発では、外部デザイナーとも共に仕事をするが、全てを任せるやり方はしない。「デザイナーは能力も才能もある人たち。だからこそ、当社が実現したいことや困っている部分を明確に示し、デザイナーがやるべきことを絞

り込んで依頼することで、こちらが求めていた仕事があがってきますし、互いのコストも抑えることもできます」。

## ユーザー視点のモノづくりがロングライフ製品を生む

内製化しているため、市場の反応を見ながら、細かい修正やパッケージデザインの変更をすぐにできることも同社の強み。「新製品を出すと、問屋やユーザーから商品に関する情報が集まってきます。それを素早く取り入れることで商品を育てることができ、その継続がやがてロングライフな製品になっていきます」。

優れた機能性と使いやすさを実現し、手にすることで満足感を味わえる同社の道具の数々。それらは、こうした設計的思考のアプローチから生み出されている。

# 機能とフォルムを兼ね備えた 使い飽きない道具を提案



「良いものに囲まれていると、良い影響を受けて発想が生まれます。ANEXブランドはユーザー、売場に育ててもらい、進化してきました。これからはユーザーに求められる道具を追求したい」と語る兼古社長。

**NICOクラブ会員** ▶ 株式会社兼古製作所 代表取締役 兼古 耕一 氏

〒955-0055 三条市場野目2201 TEL.0256-32-6321 FAX.0256-32-6373  
E-mail design@anextool.co.jp URL http://www.anextool.co.jp/

## 50年以上愛され続ける SL型ストーブの魅力

暖房器具のリーディングカンパニーとして歩むコロナは、2011年にSL型石油ストーブがロングライフデザイン賞を受賞した。初代機が誕生したのは1962年。半世紀以上に渡って変わらぬ姿で温もりを届けている製品だ。

賞へのエントリーは同社の自薦。東日本大震災のとき、避難所でSL型が使われている様子をテレビで見かけ、被災地で役立っていることに感じるものがあったというデザインチームの島田係長が応募を決めた。SL型は空気の対流と輻射熱により広い範囲を暖められるという高い性能と共に、シンプルなデザインも好印象。島田係長は「設計者の意図かどうかは不明ですが、下に燃料、真ん中に炎があるというのは、たき火やろうそくなどと同じ構造です。燃える火の周りに自然と人が集ま

るところに、SL型が長く愛される理由がある気がします」と語る。

## 技術の追求とデザインの 融合で生まれる製品群

ロングセラーのSL型石油ストーブのように、人の気持ちまでほぐす名品は、素朴さのなかに機能とデザイン性を兼ね備えている。そして、それはいまも変わらず、コロナの製品づくりの基本姿勢でもある。

「商品開発が目指すところは、当然お客さまのための製品づくりです。技術チームとしては、コロナでなければ出来ない機能を生み出し、デザインと連携して、お客さまに本当に喜んで買っただけのものに仕上げています」と暖房商品開発グループの桐生課長は語る。

寒冷地向けの薄型FF式暖房機「アグレシオ」の開発時は、薄さの実現には構造変更が不可欠というデザイン側の要望に応え、ゼロからバーナーを設計。また、ファンヒーターの最高峰モデルWZ

シリーズでは、デザイン側が提案したバイオレット色が、ホホワイト、ブラウンといった定番カラーを抑えて売上の6割を占め、社内では驚きの声が上がったという。

## あえて変えないことも 選択のひとつ

一方、長年使われている製品については、モデルチェンジの際も「使いなれた操作部をあえて変えない」こともある。ユーザーに高齢者が多い、寒冷地仕様の暖房機などは、特にそれを意識するという。温度調整のバーをスライド式からダイヤルに変更するか検討した際も、今の構造を選択した。あえて変えないことも、ユーザー第一のデザインという訳だ。「デザインが持つ本来の味の通り、外観のみに留まらず、使い勝手を含めた製品そのものをデザインすることを常に考えながらやっていきたい」と語る島田係長。暮らしに身近な製品だからこそ、使用者に寄り添った視点が活きる、同社のモノづくりだ。



## CORONA

2011年にグッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞したSL型石油ストーブ。円筒状は周囲の空気の上昇を促し、広い範囲や、吹き抜けを暖めるのに向いている。炎が明るく、避難所では夜の明かり取りにもなったという。



1962年の初代機  
(SL-1型)



薄型のFF式暖房機「アグレシオ」



冒険だったというバイオレットがヒットしたWZシリーズ。車やインテリアの流行色から、このカラーが提案された。

# 機能×デザインで お客様が喜ぶ製品を届ける

## 株式会社コロナ

暖房商品開発グループ 暖房1チーム 課長 桐生 吉栄 氏

技術管理グループ デザインチーム 係長 島田 克俊 氏

〒955-8510 三条市東新保7-7 TEL.0256-32-2111(代表) FAX.0256-36-6523

E-mail info@hode01.corona.co.jp URL.http://www.corona.co.jp/



「設計・デザインをする社員も家に帰れば商品のユーザー。使う側の気持ちを常に考えて取り組んでいます」と語る技術本部の暖房商品開発グループの桐生課長(写真左)とデザインチームの島田係長(写真右)。

## 現場で誰でも簡単に使える 紙だから実現できた担架

段ボールや、バルカナイズド・ファイバーやバスコなどの特殊紙の加工成型を手掛ける安達紙器工業。平成に入ってから自社開発商品に取り組み、ペーパーナイフ、レスキューボード、キャリーバッグといった息の長い定番商品を生み出している。

レスキューボードは1995年の阪神淡路大震災の際、畳や戸板だけが人を運んでいたという話を聞き、開発されたもの。耐久性や成形性に優れたバスコを使い、紙製担架として4年後に商品化し、IDS大賞、グッドデザイン金賞を受賞した。

特徴は「早く、簡単に、安全に」をテーマに、誰でもすぐに使えるよう、イラストで使用方法を表示してあること。少しずつ改良を加えながら、現在も自治体や企業などで採用されている。



### レスキューボード

バスコという強度や耐久性に優れた素材を使った紙製担架。コンパクトに収納でき、3つ折と5つ折の2タイプを用意。



## デザインの視点が生んだ 既成概念を覆す商品

周囲に驚きを与えたのが、NICO「百年物語」で生み出されたペーパーナイフ。2005年の誕生以来、11年間安定して支持され続けている。素材のバルカナイズド・ファイバーは強度や独特の質感が魅力だ。

「百年物語に参加することを決めたものの、その年のテーマが“刃物”。紙屋が何を作ればいいのか?というところから始まりました。我々は材料の全てを知っているので、やる前から境界が決まっています、新しい発想が出てこない。そんな中、参考になったのが、アドバイザーであるデザイナーの方の視点。結果として、当社の枠が広がった取り組み、商品になりました」と安達社長は振り返る。

ペーパーナイフは現在、厚さや色づかいなどリニューアルに取り組んでおり、新バージョンの完成も楽しみだ。

## 素材の持ち味を反映させる その思考が我々のデザイン

オリジナル製品が、長く必要とされていることはうれしい限りだと話す安達社長は、同社のスタンスとして「バスコやファイバーなどの材料の持ち味を、どう製品に反映できるかが、当社



「百年物語」参加商品  
Paper Made Paper Knife

「紙で紙を切る」をコンセプトに開発されたペーパーナイフ。企業のノベルティとしても人気が高い。2005年にデザイン・プラス賞、グッドデザイン賞を受賞。

の考えるデザインなのだと思います」と話す。また、平らな材料からモノを作るので、結果として複雑な形状ではなく、シンプルに仕上がることも、長く親しまれる商品につながっていると感じているという。

初めて自社商品の開発に取り組み始めた頃、IDSコンペへの出品を軸に開発を進め、デザインの視点のアドバイスを多く受けてきた同社。それらの積み重ねと、自分たちだから出来ることを追求する姿勢が、ロングライフの商品を生み出す基礎になっている。



軽くて頑強な  
バルカナイズド・  
ファイバーを素材  
にしたトランク。

# 紙素材の特性を知りつくした “安達紙器ならではの”の 商品づくりを

NICOクラブ会員 ▶ 安達紙器工業株式会社 代表取締役社長 安達 眞知男 氏

〒940-0029 長岡市東蔵王2-7-30 TEL.0258-24-2145 FAX.0258-24-5597  
E-mail aaa@adachishiki.co.jp URL http://www.adachishiki.co.jp



「我々は加工業なので、今後もその延長線上で、素材を活かす商品を考えていきたい」と語る安達社長。

NICO支援策活用で  
新分野・新事業に挑戦

GO!GO!  
チャレンジ  
企業

PICK UP

独自のプレス加工技術で  
開発した  
ステンレスシンクで  
海外市場に挑戦



スクエア形状の「JS15L 3Fシンク」は、立体的に使うことでシンクスペースと調理スペースを同時に確保できる。この9月には、やや小型のミドルサイズも完成予定(写真上)。通常は自動車のボディなどを絞る1,200トンのプレス機で、ステンレスシンクの絞りを行う。充実した設備と技術力が、他社では真似のできない製品を生み出している(写真下)。

昭和34年に埼玉県で創業し、上越市に拠点を置いて今年で25年目を迎えたシゲル工業株式会社。家庭用ステンレス流し台のシンク・天板の製造でトップシェアを誇る同社は、現在、海外展開や新技術の開発などに取り組んでいる。

NICOの  
コレを活用!

「海外市場獲得サポート事業」を活用し、海外での市場調査や展示会出展を実行。また、「ゆめづくり助成事業」を活用し、新しい成型加工技術の開発に挑戦しています。

## シゲル工業株式会社

代表取締役社長 今井 辰美 氏

〒942-0147 上越市頸城区西福島401-2 TEL.025-545-0050 FAX.025-543-7933

E-mail info@shigeru-k.co.jp URL http://www.shigeru-k.co.jp/

### スタイリッシュでシャープな 画期的なシンク

家庭用キッチン流し台のステンレスシンク・ステンレスカウンターを製造販売するシゲル工業株式会社は、パナソニックやTOTOへのOEM供給をはじめ、全国のキッチン・ハウスメーカーに製品を提供する金属プレス加工メーカー。大型プレス機をはじめ多様な設備を駆使した「深絞りプレス加工技術」が最大の強みだ。

商品開発にも力を入れる同社は、昨年、新製品のステンレスシンク「JS15 シリーズ」を発売した。「一般的なプレスシンクのコーナーアールはR60からR80。JS15はこれまで板金でしか製作できなかったR15を、プレス成型で実現した画期的なシンクです」と今井社長。プレスシンクでは最小のコーナーを実現し、平成28年度の「メイド・イン上越」にも認証された。

### 国内市場の縮小に対応 海外販路の開拓を目指す

スタイリッシュなデザインの「JS15L 3Fシンク」は、シンク内に2段のバーを取り付けており、まな板や水切りプレートなどを段違いで使えるほか、サポートプレートで上部を調理台として活用できるなど、効率的な作業を行える多機能シンクだ。

「この商品は国内だけでなく、海外市場もターゲットに開発しました。少子高齢化が進み、国内の住宅市場が縮

「上越工場ができて25年。当社の技術を活かした商品を、地元企業として発信していきたいという思いから「メイド・イン上越」の認証を取得しました」と語る今井社長。



小する中で生き残るためには、海外販路の開拓が重要です」。そこでNICOの「海外市場獲得サポート事業」を活用し、今年台湾、来年は欧州での展示会出展を予定。まずは現地調査で反応が良かった台湾を手始めに、ステンレスキッチンへのこだわりが強い欧州へと販路を広げていきたいという。

### 成型加工技術に挑戦 プレス絞りの工程を削減

近年は生産性向上を課題と捉え、省力化・効率化の推進を図る中、現在「ゆめづくり助成事業」を活用して進めているのが、ステンレスシンクの深絞り加工を2回から1回に削減する技術の開発だ。1回のプレス絞りで完成品を製造する、他社では例のない成型技術。金型も削減でき、製品のコストダウンが可能になる。「今後はJS15の他、新商品開発に力を入れ、海外需要にも目を向けたい。また、家庭用キッチンにとどまらず異業種も視野に入れ、当社の技術を活かせる分野を伸ばしていきたい」と今井社長。独自の技術力と開発力で業界トップを走る同社の今後、ますます注目が集まりそうだ。

気になるあの企業の  
強みに迫る!

# 注目企業に おじゃま します

PICK UP

## 幅広い分野の システム開発に 挑戦し、多様化する ニーズに応える



植林した松の幼木を守るため、雑草などを自動で刈り取る「下草刈りロボット」の試作機。新潟市内3企業が開発に携わり、同社は自動運転の制御部分を担当している(写真上)。6体のPepperが社員として在席。これまでPepperを使って受付案内やスロットゲーム、プレゼンなどを行うアプリが開発され、さまざまな場面で活躍している(写真下)。

株式会社アイビーシステムは、業務系システムからスマートデバイスアプリ、IoTシステム、ロボットアプリまで、さまざまなシステム開発を行うIT企業。近年、力を入れて取り組んでいる事業や今後の展望について、若桑社長に話を伺った。

### ここがポイント

- ◆ 最新分野の開発にいち早く着手
- ◆ IT技術の進化に追いつける実力を構築する
- ◆ NICOの支援策を有効活用し、開発から製品化まで実現

## NICOクラブ会員 株式会社アイビーシステム

代表取締役 若桑 茂 氏

〒950-3133 新潟市北区すみれ野2-1-12 TEL.025-257-3050 FAX.025-257-3060  
E-mail info@ib-system.co.jp URL http://www.ib-system.co.jp

### システムの主流は スマートデバイスへ

システム提案からソフトウェア開発、運営・保守まで、一貫したサービスを提供する株式会社アイビーシステム。競争が激しいIT業界の中で今年22年目を迎えた同社は、さまざまな分野のシステム開発で実績を重ねてきた。

「以前は販売管理や生産管理など、業務系のシステム開発が主流でしたが、約8年前からiPhoneやiPad、Androidなどスマートデバイスのアプリ開発に着手し、今はWindowsを含め、これらのシステム開発が主流になってきています。また、3年ほど前から力を入れているのがIoTシステムの開発です」と、若桑社長は語る。

### IoTシステムの活用で 顧客のニーズや地域に貢献

あらゆるモノに通信機能を持たせ、インターネットに接続することで遠隔計測や自動制御などを行うIoTシステム。その一つとして昨年、介護施設向けの「ナースコールシステム」を開発し、話題となった。これは施設の入居者がコールボタンを押すと、無線LANを介して通知され、タブレットで音声通話やビデオ通話ができるシステム。職員や家族のスマートフォンに通知することも可能だという。

また、新潟市北区が進めるプロジェクトで、海岸保安林の松を雑草などから守る「下草刈りロボット」の協同開発では、

「仕事が増えても人材が育たなければ、新しい事に取り組んでいけない。今の事業内容をしっかりと打ち出し、それに対応できる技術者を育てていきたい」と語る若桑社長。



タブレットを使って無線で遠隔操作するシステムを昨年実現。完全自動運転化を目指し、現在も開発が進行中だ。

さらに、NICOの平成27年度「IT戦略研究会」に参加し、建設現場で作業員の熱中症や事故を防ぐための安全管理システムを開発。ヘルメットに気温・湿度・位置情報や体温・脈拍などを測るセンサーを取り付け、異常があると事務所のパソコンやタブレットに通知される。現在、平成28年度「高付加価値化サポート助成金」を活用し、製品化を進めている。

### Pepperのコア開発や AIの組み込みに力を入れたい

昨年からPepperを使ったロボットアプリ開発にも着手し、ソフトバンクロボティクス社のPepperパートナープログラム認定店となった同社。今後はPepperのコア開発やAI(人工知能)を組み込んだ開発に注力する予定だ。「今後は専門技術を持つ人材を採用し、IoTをはじめAIに力を入れたい。進化に追いついていける実力を付けながら、会社を伸ばしていきたい」と若桑社長。これからも先進のIT技術を駆使し、チャレンジを続けていく。

# BUSINESS TOPICS

平成  
28年度

## 「ニイガタIDSデザインコンペティション2017」 出品作品を募集しています。

「地域発ブランド」を構築し得る産業の育成を目的に、生活市場へ向けた「新しい商品」及び生活を支える「新しいシステム」(ex.販売システム、レンタルシステムなど)の提案を対象としたコンペティションを開催するにあたり、コンペティション出品作品を募集しています。

### 募集作品

▶ MONO部門  
生活市場へ向けた作品

▶ SYSTEM部門  
生活を支えるシステム

応募期限 2017年1月31日(火)

応募費用 1点につき10,000円

申込方法等 詳しくはNICOホームページ(<http://www.nico.or.jp/>)をご確認ください。

問い合わせ先▶ 販売促進チーム TEL.025-246-0044 E-mail [design-c@nico.or.jp](mailto:design-c@nico.or.jp)



第26回(2016)IDS大賞「FP-TR TOSS OUT」(投げる消火器)/日本ファイヤープロテクト株式会社

## NICOイチ押しの 新潟モノ & ワザ よいもの、よい技

69

「暮しの手帖社」創業者の大橋鎮子さんゆかりのふきん  
日東紡ふきん「とと姉ちゃん」バージョン

図鑑

70

すっきりうまい味噌  
あやこがねコシヒカリ味噌

「日東紡ふきん」は、NHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」のモデルとなった『暮しの手帖社』創業者である大橋鎮子さんゆかりのふきんで、昨年には「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」も受賞するなど、1960年の販売から1億枚以上を売り上げるロングセラー商品です。只今、大橋さんと共同で開発したというストーリーをパッケージに盛り込んだ「とと姉ちゃん」バージョンとして、ネット通販「アマゾン」で好評販売中です。

プロも愛用する  
ロングセラー



新潟県奨励大豆「あやこがね」と県産米コシヒカリを麴にしてつくった、すっきりとおいしく、やさしい味のお味噌です。大豆は完熟豆のみ、米は丸米しか使いません。このことが旨味を引き出し、米麴由来の甘みを引き出します。塩分も主流である12%前半にして健康志向にも配慮した、みそ汁に最適なお味噌です。

無添加・天然醸造  
こだわりの  
自家製味噌



ニッポー新潟株式会社 **NICOクラブ会員**  
〒950-0065 新潟市東区東新町6-50 TEL.025-273-7191  
URL <http://www.nittobo.co.jp/business/textile/fukin/>

よしだや  
〒959-4402 東蒲原郡阿賀町津川3742  
TEL.0254-92-2342 FAX.0254-92-2789



どんなことでも、  
まずは、ご相談ください。

たとえば、  
こんな時。

- ☑ 毎月の資金繰りにもっと余裕を持たせたい
- ☑ 事業を拡大するにあたり、資金調達したい
- ☑ 財務内容を診断してほしい
- ☑ 創業したいけど何から始めたらいいかわからない など

経営改善、事業再生、創業をサポート

# 無料 経営相談

中小企業診断士や経営支援アドバイザーの資格を有する担当者を中心に  
経営や創業に関するご相談におこたえします。

悩んだ時やわからないことは早めに相談！こんなアドバイスをご提供しています。

- 当協会が永年にわたり蓄積した財務、金融ノウハウの提供
- 創業計画、経営改善計画などの策定支援と実行後のフォローアップ

- 中小企業経営診断システム(MSS)を用いた、経営課題や問題点のアドバイス
- ご相談内容により、弁護士・税理士等の外部専門家と連携し解決策を提案

中小企業とともに歩む身近なパートナー



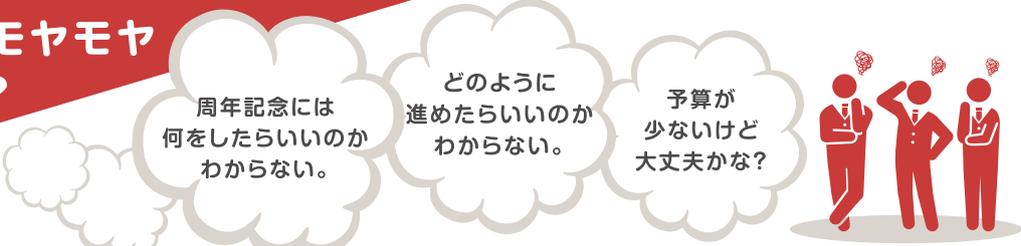
新潟 信用保証 検索

お問い合わせは

お近くの新潟県信用保証協会へどうぞ

- 本店/経営支援課 ☎ 025-267-1317
- 上越支店/☎ 025-523-7225
- 長岡支店/経営支援課 ☎ 0258-35-5714
- 佐渡支店/☎ 0259-57-2011
- 県央支店/保証課 ☎ 0256-33-6661

こんな周年のモヤモヤ  
ありませんか？



周年記念には何をしたらいいのかわからない。

どのように進めたらいいのかわからない。

予算が  
少ないけど大丈夫かな？

## 企画からツール作成・イベント運営まで 周年事業をトータルにサポートいたします！

創立記念、製品誕生記念など、節目を迎える大切な年は、  
貴社をプロモーションする最大のビジネスチャンスです。  
「周年記念」を、お客様との関係強化、社員の皆様の意欲・満足度向上、  
売上アップやブランディングを図るチャンスの年にしませんか？

記録に残す、記憶に残る  
周年企画をご提案いたします。

- 記念誌
- 式典
- CM
- PR商品開発
- プロジェクションマッピング
- ギネスに挑戦
- など



まずはお気軽にご相談ください！

TEL.025-285-8174 (平日9:00~17:00)

Mail : info@dip.co.jp ※メールの件名を「周年事業相談」としてください。

dip 株式会社 第一印刷所  
企画推進課 周年・記念事業係

16-26

**経営力**

(経営者、経営幹部)

### 会社と人が成長する組織づくり

### 自社戦略の浸透で組織に力を与える

**募集要項**

研修期間 全4日間

平成28年11月21日(月)~22日(火)  
平成29年1月10日(火)~11日(水)

時間数 30時間

対象者 経営者、経営幹部

※受講に際し、性別は問いません。

受講料 42,000円(税込み)

※受講料は変更になる場合があります。

募集人員 20名

※応募者多数の場合は、キャンセル待ちとなる場合もありますので、お早めにお申込みください。

#### カリキュラムの概要

日時	科目・内容	日時	科目・内容
8:50~	▶オリエンテーション		
11/21(月)	<p><b>経営戦略と連動した組織づくりの考え方と進め方</b></p> <p>会社と人が同時に成長するために必要となる、自社の戦略と連動した強い組織を作るための考え方、進め方について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●戦略の構築と展開の進め方</li> <li>●戦略実行に必要な組織体制を構築する際の着眼点</li> <li>●経営者・経営幹部に求められる役割</li> </ul>	1/10(火)	<p><b>人事諸制度構築のポイント</b></p> <p>戦略の実行には、育成、評価などに関する人事諸制度を整え、社員の定着、成長を促し、「人材を人財に変える」ことが重要になります。ここでは、人財育成に必要な仕組みや人事諸制度構築のポイントについて学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●等級制度の考え方</li> <li>●評価の仕組みと考え方</li> <li>●評価結果を踏まえた処遇・育成の考え方</li> </ul>
11/22(火)	<p><b>組織の動かし方【演習】</b></p> <p>人財の配置や役割の明確化、権限と責任の委譲など、組織を動かすために必要となる視点について、事例や演習を通じて学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●組織体制、組織運営、人的資源の3点から見る、組織を動かすポイント</li> <li>●組織が機能するための3要素 「目的の共有化」「モチベーション」「コミュニケーション」</li> <li>●戦略実行に求められる人財像(とくに中核人財像)の検討</li> </ul>	1/11(水)	<p><b>組織の将来像作成【自社課題演習】</b></p> <p>ここまでの研修で学んだ知識や事例を振り返りながら、自社のあるべき組織体制と運営、必要な人事諸制度をまとめ、組織の将来像を構築します。</p>

#### こんな方にオススメ

- 社員の力を引き出すための仕組み、諸制度の知識を学びたい方
- 経営理念や経営方針を社員に浸透させたい方(理解してもらいたい経営者、経営幹部の方)

#### 講師プロフィール (敬称略)

AT WILL & KOJIMA SR代表 こじま しのいち  
**小島 慎一**

昭和38年生まれ、東京都中央区出身。  
大手旅行会社入社。国内、海外団体旅行の法人経営、企画を担当する。平成14年経営コンサルタントとして独立。独立後、ビジネスプランの策定支援、マーケティング戦略の構築、労務、人事戦略の構築など中小企業において実務レベルの支援を行っている。各種講演執筆活動実績多数。中小企業診断士、特定社会保険労務士。

### 今後の研修スケジュール(10,11月分)

研修コース名	実施期間	研修期間	受講料(税込)	研修内容
売れる営業チームの作り方	10月6日(木)~11月7日(月)	全3日間※(2日+1日)	31,000円	自社の営業チームを「売れる」営業チームに育成する具体的な手法について演習を交えて学びます。
短納期化とリードタイム短縮の実践法	11月9日(水)~11月11日(金)	3日間	31,000円	「顧客の求める納期を確実に実現する生産体制」構築の仕組みづくりについて演習を交えて学びます。

お申し込み・お問い合わせは、三条校ホームページまたはお電話にてお願いいたします。



中小企業大学校 三条校

〒955-0025 新潟県三条市上野原570  
TEL:0256-38-0770(代) FAX:0256-38-0777

三条校

検索